

## &lt;別紙1&gt;

## 第三者評価結果報告書

## ①第三者評価機関名

株式会社 R-CORPORATION

## ②施設・事業所情報

名称：ぼらいと・えき	種別：障害児入所施設（福祉型）	
代表者氏名：竹下 洋久	定員（利用人数）：50名	
所在地：〒245-0017 横浜市泉区下飯田町330番地		
TEL：045-804-6980	ホームページ：http://polite-eki.jp/	
【施設・事業所の概要】		
開設年月日：2015年4月1日		
経営法人・設置主体（法人名等）：社会福祉法人ル・プリ		
職員数	常勤職員：32名	非常勤職員：5名
専門職員	（専門職の名称）	名
	社会福祉士：2名	介護福祉士：2名
	精神保健福祉士：1名	看護師：1名
	管理栄養士：1名	保育士：9名
施設・設備 の概要	（居室数）	（設備等）
	一人部屋（74室）	食堂・居間（12室）
		トイレ（15室）
		浴室・脱衣室（12室）
		医務室・静養室（1室）

## ③理念・基本方針

## &lt;理念&gt;

## ● ～思いやりの関係を体現する場～

「ぼらいと・えき」「道」「えき」で暮らし、働くすべての人が共通にもち続けていきたいことの一つであり、多分何よりも重要なこととして考えたいことは、この場を「思いやりの関係の体現の場」としたいことです。

どのような場でもその人なりの生き方が保障され、教育、就労、余暇、様々な権利が保障されねばならないことを意味しています。その場は、根源的に受容される場であり、安心と安全の場であると換言できます。

このような場を「思いやりの関係の体現の場」と名づけたいと思います。利用者と職員、利用者利用者、職員職員、これらの中で思いやりの関係を体現することは、友人関係、家族関係にも共通していくものと思います。「思いやりの関係の体現の場」であることを目指すことが、わたしたちにとって共通の理念でありたいと思います。

## &lt;基本方針&gt;

● 食事、入浴、排せつ、睡眠は、利用者さんの生活において基本的なこととしてあり、質の高い支援を目指していきます。

● 健康を守ることは大切です。定期的な医療機関への受診や、感染症罹患防止のための手立てをとります。必要とされる予防接種などもきちんと行います。

- 就学年齢の利用者さんの就学を支障がないように、学校等との密な連携に努めます。
- 就学年齢前の利用者さんの日中保育機能をきちんと保障します。
- 卒業後の生活を見通した支援を行います。
- 日常生活における自立に向けて、生活能力を高めることに努めます。
- 生活の質を高めるために、公共交通機関の利用、買い物などができるようになることをめざします。
- ご家族との暮らしが取り戻せるよう、ご家族との密な協力、連携をします。
- 成人施設やグループホームへの生活移行が円滑にすすめられるように努めます。

#### ④施設・事業所の特徴的な取組

●ぼらいと・えきは、社会福祉法人ル・プリ（以下、法人という）の経営です。法人は平成29年に、3法人(社会福祉法人くるみ会、試行会、杜の会)が合併して新たな組織として創設され、障害分野では市内でも大きな社会福祉法人となりました。現状では法人会計の適正化・透明化を狙って合併を進め、各施設の運営は旧3法人をそれぞれ事業本部として残し、運営しています。それぞれの本部で重複する機能も多く、採算性の良し悪しもあることからいずれは組織を再構築して合併でのメリット面の追求に向かうものと思われます。ル・プリはフランス語で襷(ひだ)を意味する言葉で英語のプリーツに当たります。社会福祉法人ル・プリはこの「ル・プリ」に3つの意味を持たせています。1つ目は福祉の仕事は多くの要素が重なり合い現れるジャンルです。襷の折れ曲がり重なったところの問題を解決する狙いです。2つ目は襷を考えると布のイメージです。3つ目は旧3法人の歴史を大切にし、3枚の布で襷を作り、互いに互いを包み込みながら新しい組織を創造していきます。旧3法人は当面従来の活動を継続しつつ、新しい体制の構築に向かっていきます。

●ぼらいと・えきは、横浜市立なしの木学園の民営化により、平成27年4月1日に「ぼらいと・えき」として誕生した福祉型障害児入所施設です。入所児童は、知的障がいのある高校生までの子どもたちが様々な理由・背景により、家族等と一緒に暮らす権利が侵害された状況の子どもたちに、施設での安心・安全を保障し、質の高い支援を目指して取り組んでいます。児童相談所からの情報提供・協力体制が不可欠であるため、常に情報の共有に努めています。そのためには信頼関係が築けていること、教育機関(養護学校等)との連携協力が必須で、必要な情報の共有が日頃から出来ていることや、保護者等との関係では日常的な様子等を可能な限り伝えて共有を図り、保護者等との関係が途絶えないことを大切にします。この周囲の関係の維持こそが障害児支援の基本であると考え、支援に当たっています。

#### ⑤第三者評価の受審状況

評価実施期間	2019年 10月 3日(契約日) ~ 2020年 5月 14日(評価結果確定日)
受審回数(前回の受審時期)	初回(年度)

## ⑥総評

### ◇特に評価の高い点

#### 1. 【事業所組織の明確化】

●ぼらいと・えきの組織は確立がされており、組織化がさらに進んでいます。施設長、副施設長以下、施設部門、児童支援部門、成人支援部門に分け、責任体制を明確にして業務の効率化にもつなげています。支援員も各部門に配置され、今後、益々体系的に取り組みが進んでいくものと期待できます。

#### 2. 【地域との連携】

●地域との交流の面では、周辺は大きな畑や梨畑が中心の地域であり、自治会等との連携は難しい面がありますが、地域との関わりの考え方を行動指針で示し、隣接する障害者の入所及びデイサービスの施設(よこはまりバーサイド泉)と秋祭りを一緒に行い、近所の方も参加する等、子どもたち同士でも交流を図っています。また、町内会の祭りでは成人部門が手伝いに参加し、老人会や地域の方に施設の多目的ホールや地域交流室の貸し出しを行い、地域と交流する機会を得ています。また、災害時には福祉避難所として開設し、泉区の避難所連絡会に参加し、連携を図っています。

### ◇改善を求められる点

#### 1. 【地域での思い出づくり】

●現状では地域との交流の幅が限られていますが、隣接の「よこはまりバーサイド泉」との交流により子どもたちの思い出も1つ1つ増えていることと思いますが、地域のための草むしり、公園の掃除等を取り入れ、子どもたちの「場所」として、子どもの愛着が持てる「地域」として、周辺の開発が進む前だからこそできる「子どもたちとの地域づくり」の取り組みへの一考を期待します。「何かを残していく」への発想を持ち、今後、周辺の開発が進み、ぼらいと・えきの存在感、特徴のある施設づくりが成されていくと子どもたちの楽しみにもつながっていくと考えます。また、施設の立地は下飯田駅(横浜市営地下鉄)もしくは、ゆめが丘駅(相鉄線)は小田急線の拠点駅であり、湘南台駅から1つ目の駅であることから将来的に発展が見込まれ、事前に隣接の施設と共に行事・祭り等を周知し、定着を図る取り組みとし、より認知度を広め、相談の機会や、ボランティア、人材採用への展開につながる可能性を引き寄せることが期待されます。現在、子どもたちの目に映る景色に将来に残る何かをぜひ、描いていかれることを期待いたしております。

## ⑦第三者評価結果に対する施設・事業所のコメント

施設名： ぼらいと・えき

施設長： 竹下 洋久

### <第三者評価を受審した感想>

運営から支援の考え方、普段の取り組み等運営全般に関する内容を第三者の方に報告、説明を行うにあたり、言語化する難しさを感じたとともに、それらの裏付けとなる資料の確認等業務全般を検証する良い機会となりました。

監査は別ですが、施設外の機関からの検証、評価は、このような機会以外にはなく、福祉業界また児童福祉分野における共通の「評価項目」に沿った検証作業を行うことで、当施設の運営がどのような位置(現状)にあるのかを知る機会になったと考えます。

<評価後取り組んだ事として>

1. 現存する各マニュアルを点検するとともに、改めて各職員が確認できるように周知しました。
2. 研修体制については、職員の経験年数等を確認し、改めて職員構成に沿った内容や開催方法を検討しました。
3. 新年度にあたり、採用した職員も複数名おり、利用者支援にあたり基本的な対応等について職員に向けて伝えています

⑧第三者評価結果  
別紙2のとおり